

評価日：2026年7月31日

有限会社ヘルパーステーション

むさしのフレンズローンNEXT評価書

株式会社ぶぎん地域経済研究所

本文書は、株式会社武蔵野銀行（以下、「武蔵野銀行」という）が有限会社ヘルパーステーション（以下、当社という）に対して取り組む「むさしのフレンズローン NEXT」に対するオピニオンである。「むさしのフレンズローン NEXT」は、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」を参考に、サステナビリティに係る有意義な目標を設定した中堅・中小企業向けのサステナブルファイナンスであり、武蔵野銀行は融資の取り組みを通じて借り手のサステナビリティ経営を支援する。なお、本文書は、「むさしのフレンズローン NEXT」が上記の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」又は「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」に記載された諸原則に適合していることを何ら保証するものではない。

1. 会社概要とサステナビリティ方針

（1）会社概要

当社は、1999 年の設立以来、熊谷市を地盤として介護事業を展開している。訪問介護サービスからスタートし、2006 年には「あにもの森（※）」を開設、1 号館では認知症対応型グループホーム（9 室）および短期入所者生活介護（ショートステイ、20 室）を、2 号館では介護付き有料老人ホーム（165 室）を運営している。また、2019 年からはコインランドリー事業を展開しており、現在では関東を中心に 23 店舗まで拡大している。

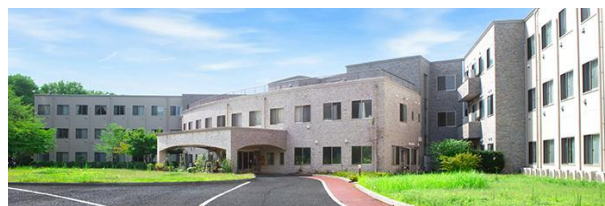
（※）あにもの森（Animo）とは、スペイン語で「元気づける」という意味であり、「介護を通じて、皆様の活動的なシニアライフをお手伝いしたい」という想いが込められている。

（2）サステナビリティ

当社グループは、『感謝と奉仕』の精神をもとに、地域に愛され、信頼され、ご満足頂ける『あにもの森』を目指し、地域社会への貢献を果たす。」という企業理念のもと、介護事業を中心とした事業展開により、地域・社会の発展に貢献している。また、環境負荷軽減に向けて、様々な方法でCO2排出量の削減を進めている。



あにもの森 1 号館



あにもの森 2 号館

出所：同社 HP

2. KPI・SPTsの選定

(1) KPI・SPTsの概要

当社が運営している介護施設では、「LED照明」や「太陽光発電設備」が導入されているほか、「新型の空調システム」へ順次入れ替えを行う等、様々な脱炭素社会の実現に向けた取組みを行っており、「CO2排出量（原単位ベース）の削減」をKPIとして選定した。なお、当社は今後もコインランドリー事業の展開等で業容が拡大する可能性があることから、総量ではなく原単位ベースでの削減を選択している。

(2) KPI・SPTsの重要性

KPIは、当社のサステナビリティ方針に通ずる環境負荷軽減の取組みであり、当社のサステナビリティ経営において重要な意味を持っている。

(3) 当社のKPI・SPTsに関する問題や課題

CO2排出量を削減するためには上述のような投資が必要だが、介護施設において「空調管理」や「衛生管理」の効率化を進めていくには限界がある。相応しい設備投資を行いつつ、介護の「質」や「安全性」を低下させず、CO2排出量の削減を行っていくことが課題である。

3. 年度別目標の設定

(1) 年度別目標の概要

当社は、KPI・SPTsとなる「CO2排出量（原単位ベース）の削減」について、2030年度末までに2025年度比▲13.5%となるように毎年度の目標を設定した。

【融資期間：2026年7月～2031年7月（5か年）】

年度	2026年3月 実績	2027年3月 目標	2028年3月 目標	2029年3月 目標	2030年3月 目標	2031年3月
CO2 排出量 (t-CO2/億円)	44.90	43.69	42.48	41.26	40.05	38.84
2025 年度比 削減率(%)	—	▲2.7	▲5.4	▲8.1	▲10.8	▲13.5

(2) 年度別目標の政府・業界等の目標等との比較

2030年度末までの削減目標を基準年対比で換算すると毎年▲2.7%の削減となり、挑戦的な目標である。参考までに、国のカーボンニュートラル達成目標は、2013年対比で2040年までに▲73%削減（基準年対比毎年▲2.7%）となっている。

(3) 年度別目標の達成手段とネガティブインパクト

当社は、年度別目標の達成に向けて「新型の空調システム」へ順次入れ替えを行っていくが、設備更新には「環境」へのネガティブな影響も考えられる。まだ使用可能な設備を高性能な省エネ設備へ一斉に買い替えるような場合、大量

廃棄や、解体プロセスでの新たな環境負荷という問題が発生するが、今回の設備更新は相応に古い空調システムを計画的に更新するものであり、ネガティブインパクトは回避されと考えられる。

（４）年度別目標の妥当性

当社は武蔵野銀行の協力のもと、目標の有意義性や計画の妥当性の検討を踏まえたうえで年度別目標を設定した。目標は定量的なものであり、達成状況について武蔵野銀行及びぶぎん地域経済研究所の検証が可能である。

（５）ローンの特性

貸出期間中に適用される金利スプレッドは、①当社が年度別目標の達成に向けた取り組みの進捗を武蔵野銀行及びぶぎん地域経済研究所に報告すること、②達成状況についてぶぎん地域経済研究所による検証を受けること、③年度別目標を達成すること、の３要件により確定する。金利スプレッドの変動内容については、年度別目標の達成状況などに応じて縮小・拡大が想定されており、融資の契約書類において特定される予定である。

４．モニタリング

（１）定期レビュー

当社は年度別目標の達成状況を書面等により武蔵野銀行に提出する。これにより武蔵野銀行は年度別目標の達成状況に関する最新の情報を入手できる。

（２）SPTs達成検証

ぶぎん地域経済研究所は、当社の年度別目標の達成状況について検証し、武蔵野銀行へ報告する。

以上

1. ぶぎん地域経済研究所のオピニオンについて

本文書は、貸付人が借入人に対して実施する「むさしのフレンズローン NEXT」サステナブルファイナンスについて、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」を参照し設定する目標としての合理性に対するオピニオンを述べたものです。そのため、本文書は、「むさしのフレンズローン NEXT」が「サステナビリティ・リンク・ローン原則」又は「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」に記載された諸原則に適合していることを何ら保証するものではありません。また、本文書の内容は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。ぶぎん地域経済研究所は、当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 武蔵野銀行との関係、独立性

ぶぎん地域経済研究所は武蔵野銀行グループに属しており、武蔵野銀行及び武蔵野銀行グループ企業との間及び武蔵野銀行グループのお客さま相互の間における利益相反の恐れのある取引等に関し、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は武蔵野銀行とは独立して行われるものであり、武蔵野銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. ぶぎん地域経済研究所の第三者性

借入人とぶぎん地域経済研究所との間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利はぶぎん地域経済研究所が保有しています。本文書の全部又は一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。